

復興の礎に



広報しまだ

Shimada

2012
6
vol.168

目次 CONTENTS

- 2 復興の礎に⑧
- 4 特集：特定健診
- 8 特集：歯科口腔外科
- 10 平成23年度市の財政状況
- 12 まちの話だい
- 14 受章おめでとうございます
- 15 米国リッチモンド市訪問
- 16 しまだ情報
- 21 国民健康保険税の変更
- 22 楽習センター 夏の短期講座
- 23 博物館 夏の体験学習
- 24 防災メールを届けます
- 25 スポーツ INFO
- 26 暮らしのシグナル
- 27 図書館だより
- 28 けんこうナビ
- 32 便利帳／彩りもう一品
- 34 掲示板／みんなのひろば
- 36 しまだ人：中村 保さん

表紙 COVER STORY

川根保育園児が、地元の田植え前の田んぼで、ロバやポニーなどの動物とふれあいました。



市は、東日本大震災による岩手県山田町と大槌町の災害廃棄物の本格受け入れを、5月23日から開始しました。東北地方と東京都以外では、全国初となります。

今回受け入れた災害廃棄物10tは、5月18日に山田町の仮置き場で検査機関による遮蔽線量率の測定が行われ、静岡県の基準を下回り、安全性が確保された木材チップです。コンテナ5基に積載された災害廃棄物は、静岡市まで鉄道で運搬された後、トラックで田代環境プラザに運び込まれました。現場では、地元の伊太地区自治会役員の皆さんが空間線量率を測定。1時間あたり、0.05〜0.07マイクログローベルトという測定結果で安全性が確認されました。その後、検査機関が放射能濃度を測るためのサンプルを採取してから、災害廃棄物はゴミピットへ投入。市内の一般廃棄物（家庭ごみ）との割合が約15%になるように混ぜ合わせ、溶融を開始しました。しかし、4基目のコンテナからサンプルを採取しようとしたところ、約70kgのコンクリート塊（長さ60cm・幅25cm・厚さ18cm）が見つかりました。市では、作業を中断して県や地元自治会と協議。原因が究明され、安全対策がなされるまで、焼却を延期することを決めました。

災害廃棄物を溶融した「処理灰」約2.2tは、検査機関で放射能濃度を測定した結果、1kgあたり91ベクレルでした。これは、最終処分場に災害廃棄物を埋め立てる際の国の基準8000ベクレルを大幅に下回り、放射性廃棄物として扱わなくて良いとされる100ベクレル以下です。市は、コンクリート塊が混入していたことから、処理灰を埋め立てずに仮置きすることを決定。5月25日、市の最終処分場に1t入れの土のう袋8つに入れて運び込みました。また、5月28日には、2月16日に試験溶融した処理灰約4.5tも搬入・仮置きしました。



桜井市長に謝罪する工藤岩手県環境生活部長（左）

た。また、同日の夜には、田代環境プラザがある伊太地区の自治会役員ら約20人に対して、国や県の担当者とともに陳謝。原因究明の結果と今後の対策について説明を行いました。

岩手県の担当者は「仮置き場で混入したと考えられるコンクリート塊は、搬出用コンテナに木材チップを重機で積み込む際に、作業員が気付かないまますくい上げられた、道路の縁石の可能性がある」と説明。再発防止のため、次のような対策を挙げました。

- ① 仮置き場を周辺に縁石などが無い舗装された場所に移設し、地面と周囲を鉄板で囲う
 - ② 搬出前に木材チップをふるって広げ、熊手などを使って異物の混入の有無を作業員が確認する
 - ③ 監視員を二人配置して、チェック体制を強化する
- 今後市では、地元住民の理解を得た上で、田代環境プラザの溶融炉の定期点検が終了する6月下旬から、災害廃棄物の受け入れを再開する予定です。

▼災害廃棄物の受け入れについての詳細情報は、環境課のホームページでご覧いただけます。
http://www.city.shimada.shizuoka.jp/kankyousisetu/gareki_top.jsp

岩手日報

平成24年5月3日付け朝刊

「災害廃棄物受け入れの恩返しに島田茶を飲もう」と、岩手県盛岡市内の茶販売店で、島田市の新茶パックを買い物客にプレゼントしている取り組みが、岩手日報に掲載されましたので紹介します。助け合いと感謝の心は、着実に被災地と島田市に広がっています。

がれき処理に恩返し

飲もう 島田茶

「がれき受け入れの恩返しをしたい」。盛岡茶業会（田代正会長、6社）は新茶販売の時期に合わせて、加盟店で買い物をした客に静岡県島田市の「島田茶」のプレゼントを始めた。同市は、東北地方以外では東京都に次いでがれきの受け入れを表明し、全国有数のお茶どころとしても知られる。同会は、島田のお茶をたくさん飲み、感謝を示したい」と思いを込める。

盛岡茶業会

買い物客に贈る 静岡から

同会は島田市の島田額は約76億8千万円、茶業協同組合（高森功で、面積と生産量は静岡組合）から先月末に、岡県の約14%、産出額収獲されたばかりの新茶は約12%を占める（2茶干パックを購入し、0.05年農林業センサた。銘柄は「島田つゆスなど」）。

「ひかり」と「島田やぶのがれき受け入れ表明された茶」の2種類。役員会で「がれきの受け入れをいち早く表明してくれた島田市に、高森組合長は「がれきが上がり、準備を進めたい」と話した。田代会長は「こちらから変わりが無い」としての予算を上回る商品を送ってくれたと思う。かえって恐縮している」と話す。

同組合によると、島田市の茶園面積は約2087haで荒茶生産量は約5791t。産出高森組合長は「島田は現在、見渡す限り緑色だ。例年以上の寒さで茶葉がすっかり冬眠し、3月の雨で水分補給もはつきり。品質は高い」と太鼓判を押す。

加盟店は盛岡市内の柏喜園茶店、喜久屋茶舗、竹原茶店、中村清香園、繁田園、森之園。



店頭で買い物客にプレゼントしている「島田茶」を手にする盛岡茶業会の田代正会長